

匝瑳市環境基本計画

骨子素案

【構成検討資料】

平成 22 年 7 月

目 次

第 1 章 計画の基本的事項

第 2 章 匝瑳市の環境の現状

第 3 章 匝瑳市における環境課題

第 4 章 匝瑳市の環境目標

第 5 章 基本施策

第 6 章 市民・事業者の環境配慮指針

第 7 章 計画の推進

第1章 計画の基本的事項

1. 計画の目的

平成18年1月23日、八日市場市と野栄町が合併して誕生した「匝瑳市」は、みどり豊かな恵まれた自然と歴史のあるまちです。

市北部は、谷津田が入り組んだ複雑な地形の台地部となっており、里山の自然が多く残されています。南部は、平坦地で市街地を除いてほとんどが田園地帯となっており、白砂青松の続く九十九里海岸に面しています。

気候は海洋性の温暖な気候で、夏涼しく冬暖かい、とても過ごしやすい土地柄です。冬でもほとんど降雪はみられません。

このように、みどり豊かで過ごしやすい環境に恵まれた匝瑳市ですが、これまでの歴史を振り返る中で、自然環境は徐々に失われつつある状況にあります。さらに、地球温暖化の要因とされる日常生活や事業活動におけるエネルギー消費の増大等、様々な問題に直面しています。

このようなことから、市民・事業者・市の協働により、本市の恵まれた自然を守り育て、地球環境にも負荷をかけないまちを創造していくために、匝瑳市環境基本計画を策定するものです。

2. 計画の位置づけ

本計画は、匝瑳市環境基本条例第8条に基づき策定する計画であり、匝瑳市総合計画に基づくまちづくりを環境面から実現していく役割を担います。

また、本計画は、各環境分野における環境目標や、具体的な施策の方向性等を明らかにし、各種計画及び施策の環境に関連する分野を立案・実施するにあたっての指針となるものです。

3. 計画の対象とする環境の分野

本計画の対象とする環境の分野は、以下の4つとします。

●生活環境 ●自然環境 ●快適環境 ●地球環境

●生活環境

日常の生活活動や事業活動に関わる環境です。健康や安全等、都市型公害に関わる要素が含まれます。

●自然環境

動植物や生態系、水資源に関わる環境です。地域の豊かな自然の保全・創出等に関わる要素が含まれます。

●快適環境

生活にやすらぎと潤いを与える環境です。公園や景観、環境美化、歴史・文化等に関わる要素が含まれます。

●地球環境

地域や国を超えたグローバルな視点に立った環境です。廃棄物、エネルギー、地球温暖化等、私たちの生活様式や事業活動が与える地球への負荷に関わる要素が含まれます。

4. 計画の対象とする地域

本計画は、本市全域を対象とします。

なお、今日の環境問題は、大気や水質への環境負荷等、行政区域を越え、地域が一体となった対応が求められることから、これらの問題に対する本市の役割を明らかにし、国及び県の関係機関や近隣市町とも連携を図ります。

5. 計画の期間

本計画の期間は、平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 年間とします。

また、的確な進行管理を行うとともに、平成 27 年度を中間目標年次とし、計画の達成状況や社会情勢の変化等を勘案して、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

第2章 匝瑳市の環境の現状

1. 匝瑳市の概況

(1) 地勢

本市は、千葉県北東部に位置し、東京都心から約70km圏内、千葉市から約40km、成田空港から約20kmの距離に位置しています。

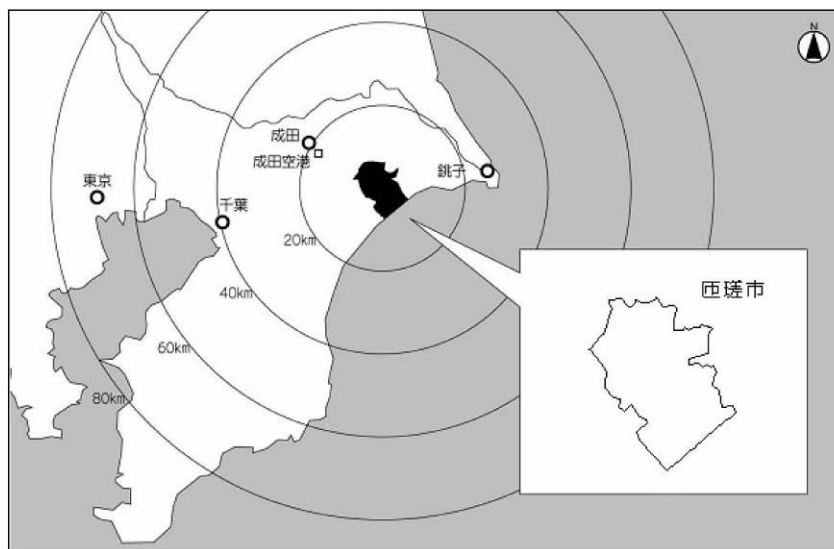
東は旭市、西は山武郡横芝光町、北は香取市及び香取郡多古町に接し、南は太平洋に面しています。

市の北部は、下総台地の緩やかな丘陵地帯で、谷津田が入り組んだ複雑な地形を成し、里山の自然が多く残されています。

東部は干潟八万石の水田、南部は植木畑が広がる田園地帯となっており、南端には九十九里海岸が続いています。

市の中心部には、JR総武本線と国道126号が丘陵と平野部を分けるように東西に走り、沿線には市街地が形成されています。

■ 匝瑳市の位置

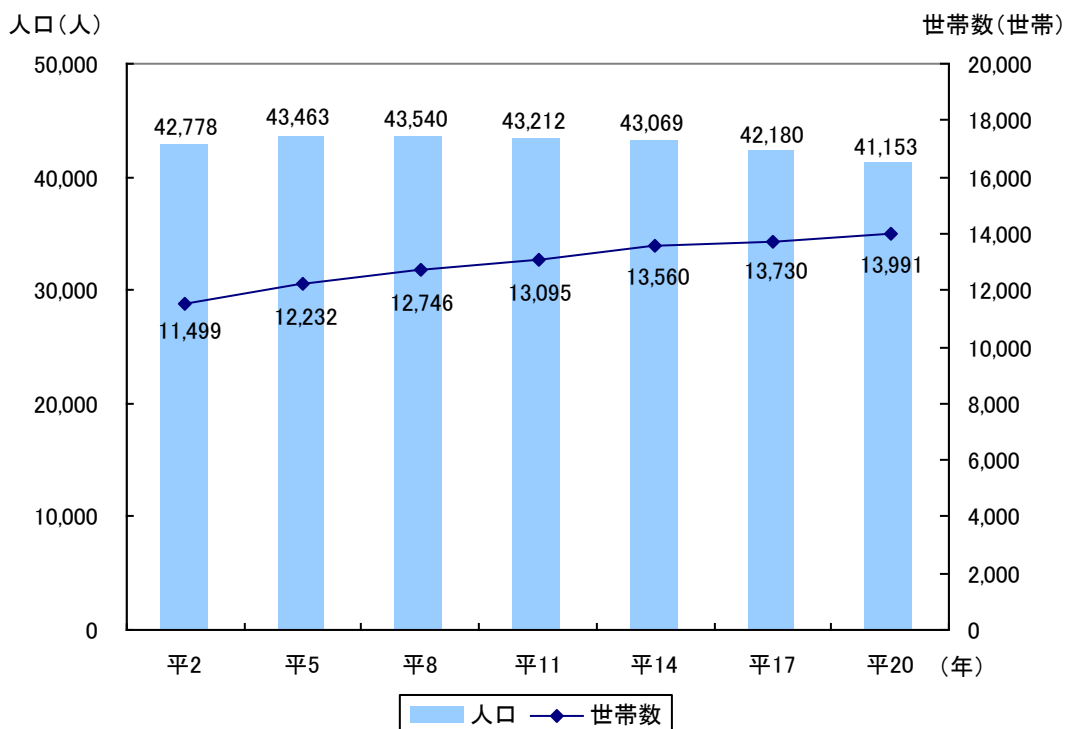


(2) 人口・世帯数

本市の人口の推移をみると、平成8年まで増加傾向にありましたが、以降、減少傾向に転じており、平成20年では、41,153人となっています。

世帯数は増加傾向を維持しており、その結果、1世帯当たり人員は減少し、核家族化の進展がうかがえます。

■ 人口・世帯数の推移



資料：統計そうさ（平成20年版）

■ 1世帯当たり人員

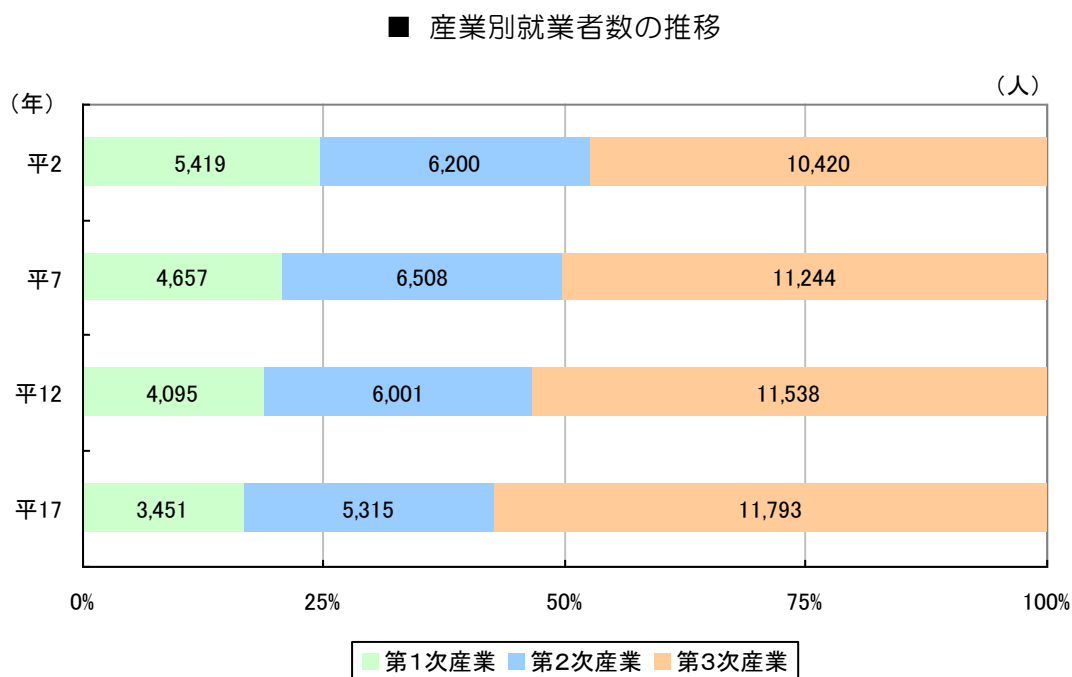
年度	平2	平5	平8	平11	平14	平17	平20
1世帯当たり人員	3.72	3.55	3.42	3.30	3.18	3.07	2.94

資料：統計そうさ（平成20年版）

(3) 産業

本市の産業分類別就業者数の推移をみると、第1次産業は減少傾向が続き、また、第2次産業も平成7年以降、減少傾向となっています。

農業、工業等の就業者数が減少していますが、商業・サービス業等の就業者数は増加しています。



2. 生活環境

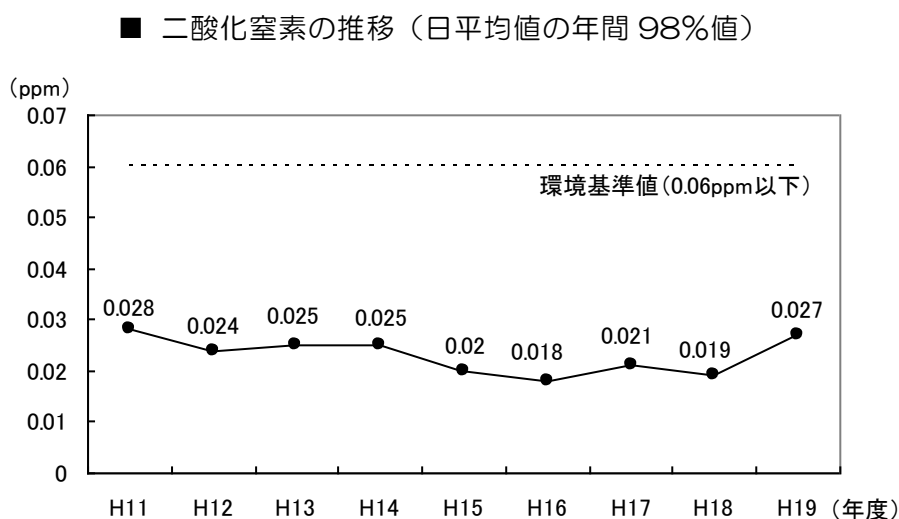
(1) 大気

①大気質の状況

本市では、椿海地区椿に一般環境大気測定局が設置され、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダントについて、常時監視が行われています。

ア. 二酸化窒素

椿測定局の二酸化窒素の濃度をみると、環境基準値を大きく下回る濃度で推移し、環境基準の達成率も 100%となっており、良好な状況にあります。



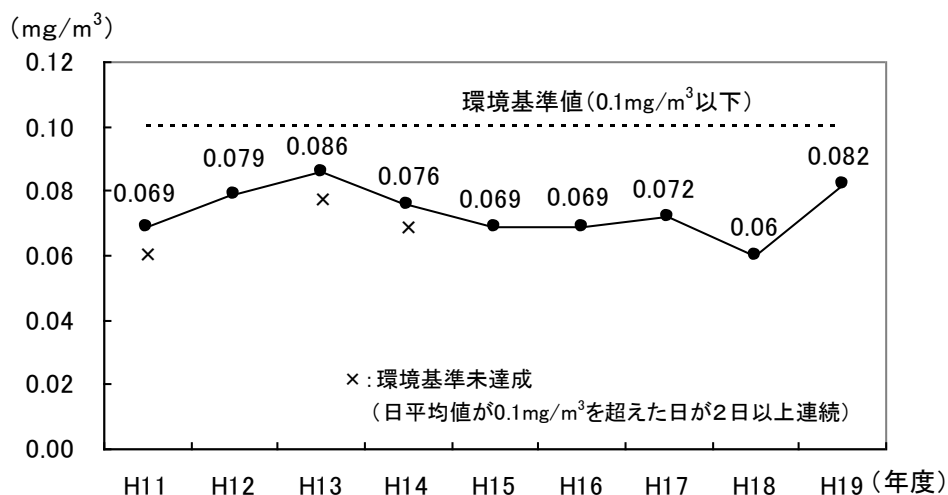
注) 環境基準の評価基準：日平均値の年間 98%値が 0.06ppm 以下

資料：千葉県環境白書

イ. 浮遊粒子状物質

椿測定局の浮遊粒子状物質の推移をみると、平成 14 年度までは、日平均値の評価において環境基準未達成の年が度々ありましたが、平成 15 年度以降では、環境基準の達成が続いており、改善が進んでいます。

■ 浮遊粒子状物質の推移（日平均値の2%除外値）



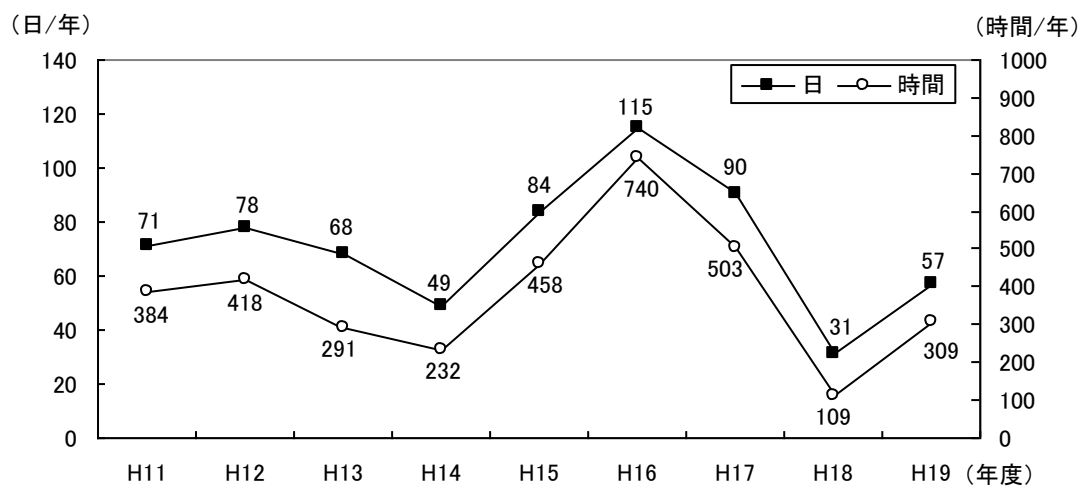
注) 環境基準の評価基準：日平均値の2%除外値が0.1mg/m³以下で、かつ日平均値が0.1mg/m³を超えた日が2日以上連続しない

資料：千葉県環境白書

ウ. 光化学オキシダント

橋測定局の環境基準の達成状況をみると、ほとんどの年で年間50日以上が未達成となっており、平成16年度においては115日の未達成となっています。平成18年度、19年度はやや未達成日数が減少しつつも、大きな改善はみられません。

■ 光化学オキシダントの推移（昼間1時間値が0.06ppmを越えた日数と時間）



注) 環境基準の評価基準：1時間値が0.006ppm以下

資料：千葉県環境白書

(2) 水質

①環境基準指定・達成状況

市内に流域がある河川では、新川と栗山川において環境基準が指定されています。

BOD（生物化学的酸素要求量）の環境基準の達成状況をみると、新川では、水質改善の傾向はみられるものの、環境基準は未達成となっています。栗山川では、徐々に水質改善が図られており、平成16年度以降、環境基準を達成する年が多くなっています。

■ 環境基準指定河川

水域名	範囲	類型	達成期間
新川上流	干潟大橋より上流	C	□
新川下流	干潟大橋より下流	C	ハ
栗山川上流	総武本線鉄道橋より上流	A	□
栗山川下流	総武本線鉄道橋より下流	B	□

注) 達成期間 環境基準に係る水域及び地域の指定時から、イ：直ちに達成、□：5年以内で可及的速やかに達成、ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成と分類

■ 類型別環境基準値

類型	基準値
	生物化学的酸素要求量（BOD）
A	2mg/L 以下
B	3mg/L 以下
C	5mg/L 以下

■ 環境基準達成状況

水域名	測定地点	H14		H15		H16		H17		H18		H19	
		75%値	判定	75%値	判定	75%値	判定	75%値	判定	75%値	判定	75%値	判定
新川上流	干潟大橋	11.0	×	7.9	×	6.2	×	7.0	×	5.9	×	6.7	×
新川下流	駒込堤	15.0	×	8.3	×	7.5	×	6.8	×	6.8	×	8.0	×
栗山川上流	新井橋	4.1	×	4.1	×	2.2	○	3.4	×	2.0	○	3.0	×
栗山川下流	木戸大橋	3.4	×	3.1	×	2.5	○	3.1	×	2.9	○	2.9	○

資料：千葉県環境白書

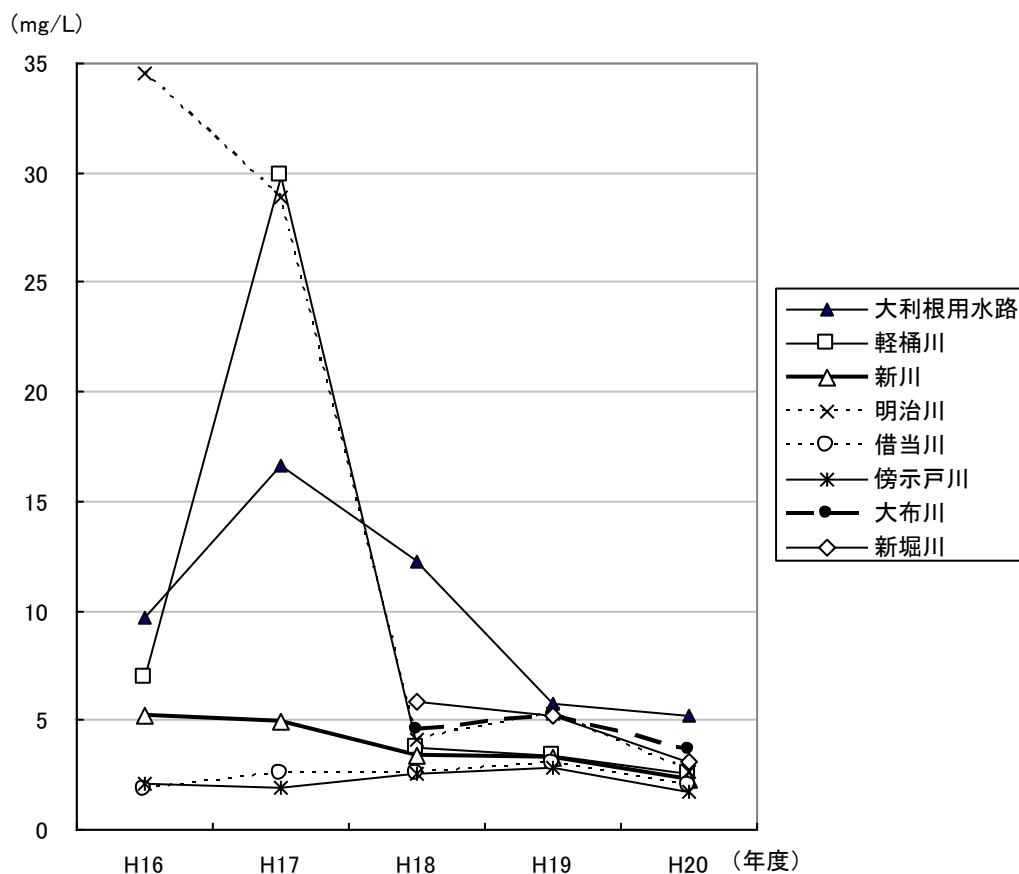
②その他河川等の水質状況

本市では、8河川等15地点において、各年度、季節ごとに計4回の水質測定を行っています。

年度平均値で水質の状況を見ると、BOD（生物化学的酸素要求量）では、大利根用水路、軽桶川、明治川が、高い値を示していましたが、近年、改善が進み、5mg/L前後で推移しています。その他河川においても、BODは概ね低下する傾向にあります。また、借当川、傍示戸川では毎年3mg/L以下の値で推移し、比較的良好的な水質が保たれています。

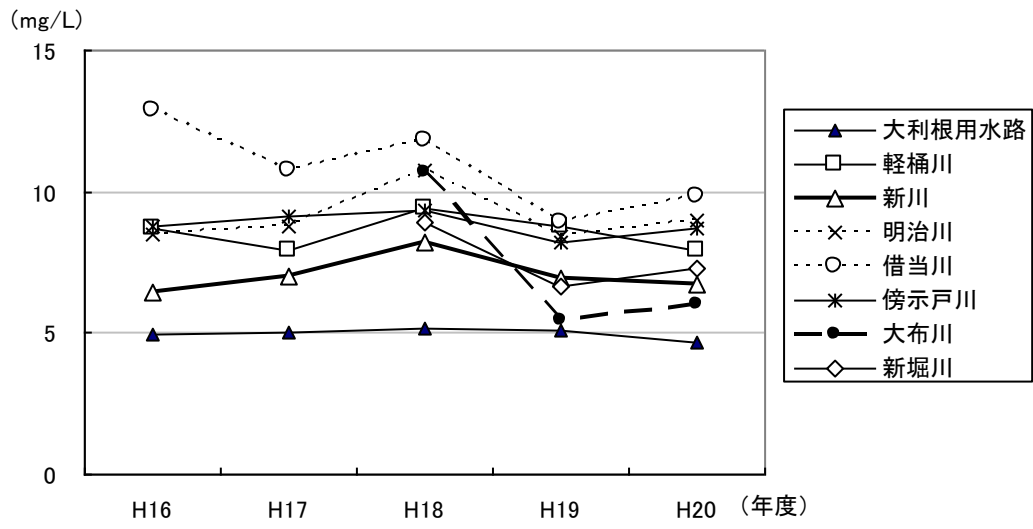
DO（溶存酸素量）では、借当川が10mg/L以上で推移し、良好な値を示していましたが、近年、やや低下の傾向にあります。その他河川においても、大利根用水路を除き、5mg/L以上を示し、概ね良好な状況にありますが、推移は横ばい若しくはやや低下する傾向となっています。

■ BODの推移（年度平均値）



資料：匠瑳市ホームページ(公共用水域等水質調査)

■ DOの推移（年度平均値）



資料：匝瑳市ホームページ(公共用水域等水質調査)

③湖沼の水質

市内5箇所の池・沼において、各年度2回の水質測定を行っています。

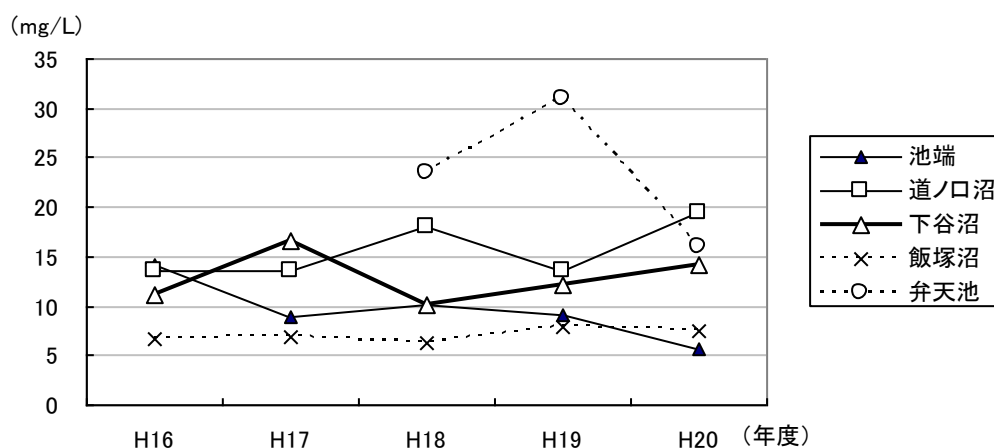
COD（化学的酸素要求量）では、弁天池、池端で改善傾向にある一方、道ノ口沼、下谷沼で悪化しています。そうした中、飯塚沼が10mg/L以下の推移となっているほか、池端も平成19年度以降10mg/L以下となっており、比較的に良好な水質状況にあります。

■ 湖沼の水質の状況（年度平均値）

調査地点	COD(mg/L)					DO(mg/L)				
	H16	H17	H18	H19	H20	H16	H17	H18	H19	H20
池端	14.2	9.0	10.1	9.2	5.7	7.5	7.1	10.5	9.9	6.3
道ノ口沼	13.5	13.5	18.0	13.5	19.5	11.1	11.5	14.5	10.5	10.5
下谷沼	11.2	16.5	10.2	12.2	14.2	6.9	10.9	10.3	9.0	12.5
飯塚沼	6.6	7.0	6.4	7.9	7.5	5.6	6.3	5.5	7.3	4.5
弁天池	—	—	23.5	31.0	16.0	—	—	11.7	14.5	9.7

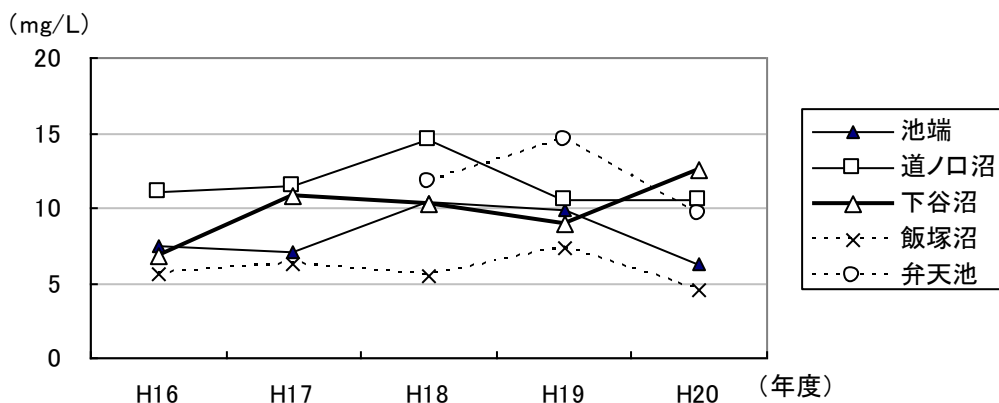
資料：匝瑳市ホームページ(公共用水域等水質調査)

■ CODの推移（年度平均値）



資料：匝瑳市ホームページ(公共用水域等水質調査)

■ DOの推移（年度平均値）



資料：匝瑳市ホームページ(公共用水域等水質調査)

(3) 騒音・振動

①騒音規制地域・振動規制地域

本市では、騒音規制法及び振動規制法に基づく騒音規制地域、振動規制地域が用途地域において指定されており、用途地域に応じた地域類型ごとに環境基準値が定められています。

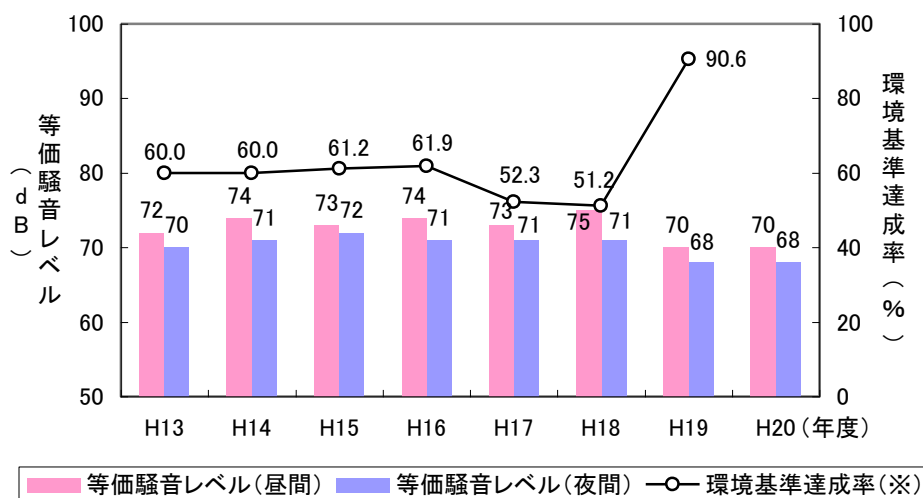
②騒音・振動の状況

本市では、国道 126 号八日市場ハ地先（環境基準類型 B）において、交通騒音・振動の測定を行っています。

騒音は、平成 18 年度までほぼ横ばいの騒音レベルが続き、環境基準達成率（環境基準を達成している戸数の割合）は 50～60%となっていました。平成 19 年度以降、騒音レベルが低下し、環境基準達成率も約 91%と大きく改善されています。

振動は、ほぼ横ばいの推移をみせており、要請限度は全ての年度で達成されています。

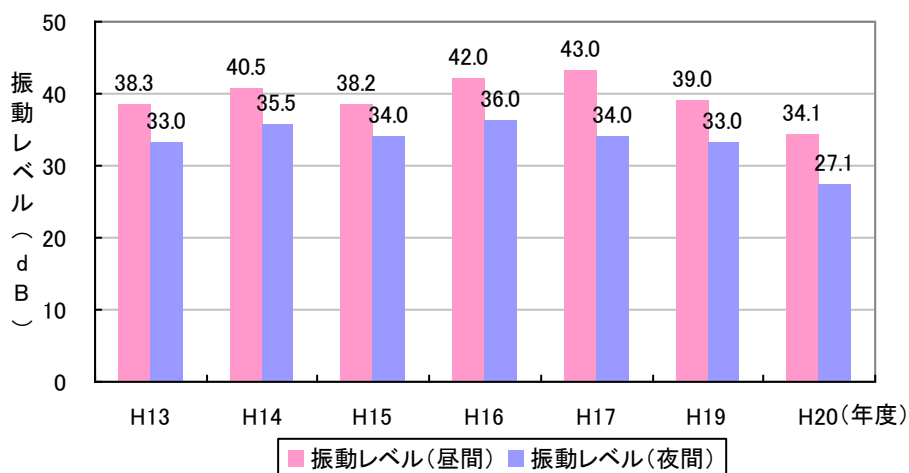
■ 交通騒音の状況



注) 環境基準達成率：昼夜とも環境基準を達成した住戸の割合

資料：千葉県環境白書、匝瑳市ホームページ

■ 交通振動の状況



注) 平成 18 年度測定データなし

資料：千葉県環境白書、匝瑳市ホームページ

(4) 不法投棄

近年の状況としては、大規模な産業廃棄物の不法投棄は減少し、小規模なゲリラ投棄が年に数件発生しています。また、家庭ごみなどのいわゆる“ポイ捨て”をはじめとして、一般廃棄物の不法投棄が後を絶たない状況にあります。

■ 不法投棄ごみ処理量の推移（一般廃棄物）

単位: kg

H16	H17	H18	H19	H20
28,810	77,680	35,320	21,730	27,240

資料：匝瑳市ほか二町環境衛生組合

■ 不法投棄に関する苦情受付状況

単位: 件

H16	H17	H18	H19	H20
19	41	33	20	26

資料：環境生活課

●市民ワークショップから見た匝瑳市の環境（「生活環境」編）

本計画の策定にあたっては、10名の市民が参加したワークショップを開催し、本市における環境の現状や課題、今後の方策について活発な議論をして頂きました。

以下、各環境分野において、ワークショップで発言された本市の環境の現状を記載します。

【水質の悪化】

- ・水路のごみが多い。
- ・タナゴやエビが住んでいたのにいなくなった。
- ・コンクリート水路が水質を悪くしている。

【騒音・振動】

- ・トラックの数が増えている。
- ・昔に比べて暴走族が減った。
- ・狩猟期間のときの猟銃の音がうるさい。

【大気・空気】

- ・空気は昔と変わらない。他よりも環境は良い（東京等へ行くと鼻の中が真っ黒になる）。
- ・排ガスの影響で花粉症になりやすくなったのではないか。
- ・家畜のにおいがすごい地区もある。

【土壌】

- ・土壌のバランスが崩れている。植物が育たない。

3. 自然環境

(1) 水象

本市の水系は、新川、栗山川の2水系で構成され、それぞれの水系は下総台地を水源とし、九十九里平野を緩やかに流れています。

新川水系の流域は、市域東部の九十九里平野を占め、主な河川は、二級河川の新川と七間川であり、明治川、軽桶川、念仏川をはじめとする小河川が数多く流入しています。

栗山川水系は、市域北部の台地部に源を発し、市南西部の九十九里平野へと広がる流域を形成しています。主な河川は、二級河川の栗山川、借当川、多古橋川、高谷川があり、栗山川には数多くの小河川が流入しています。栗山川の支流である借当川は、市域北部の台地に源を発し、谷津田を抜け、栗山川に合流しています。

市内には湖や大きなため池等はありませんが、小さな池沼がいくつかあります。

太平洋に面した弓状の自然砂浜地を持つ九十九里海岸は、県立九十九里自然公園に指定され、首都圏の海洋レクリエーションの場となっています。

■ 主要な河川の状況

区分	水系名	河川名	区域		延長 (m)
			上流端	下流端	
2級	栗山川	借当川	左岸 匝瑳市長岡字高塚140-4地先 右岸 匝瑳市飯高字大部田232-1地先 県道佐原八日市場線境橋下流端	栗山側への合流	5,000
	新川	新川	左岸 香取郡東庄町大字大久保字向田 右岸 同字竹の下 町道11号線無名橋	匝瑳市長谷浜で海に至る	20,418
準用河川	栗山川	境川	左岸 匝瑳市大浦字竹の下1751 右岸 匝瑳市大浦字竹の下1784-2	借当川へ接続	1,445

資料：統計そうさ（平成20年版）

(2) 生物

①北総台地の里山

本市の北部を占める北総台地は、平坦な台地に、平らな谷底を持つ「谷津」と呼ばれる細い谷が樹木の枝のように入り込み、特徴ある環境を形成しています。

谷津では古くから稲作が営まれ、台地上は、マツやスギの植林、畑のほか、かつては茅場（ススキなどの草地）等に利用されてきました。



北総台地の谷津田

資料：千葉県生物多様性ハンドブック

■谷津の生態系

谷津では、稲作に伴って、水田や畦、水路、池など多様な環境が生み出され、これら環境に適応した多くの生物がみられます。

「生命のにぎわい調査団（千葉県生物多様性センター）」によると、市内の谷津田における平成21年3月の調査において、「トウキョウサンショウウオ（千葉県RL重要保護生物B）」、「ニホンアカガエル（千葉県RL最重要保護生物A）」、「ニホンアマガエル」、「シュレーゲルアオガエル（千葉県RL一般保護生物D）」、「ウマビル」、「カワニナ」、「マルタニシ（千葉県RL一般保護生物D）」、「タイコウチ」、「ウグイス（千葉県RL一般保護生物D）」、「コゲラ」、「タチツボスミレ」、「ニオイタチツボスミレ」、「コモウセンゴケ（千葉県RL要保護生物C）」等が確認されています。



ニホンアカガエル

資料：千葉県生物多様性ハンドブック

注）千葉県RL：「千葉県レッドデータブック」のリストに掲載されており、対象種が絶滅の危機に瀕していると同時に、その種が保護を必要としていることを示している。この点を踏まえ、評価基準は保護の必要度の高さからA～Dのカテゴリーに区分されている。

■台地の生態系

台地上はコナラなどの落葉樹からなる雑木林や茅場、畑、スギやマツの植林として利用されてきました。管理された明るい雑木林の中では、カタクリやヒトリシズカなどが花を咲かせ、定期的に草刈される茅場では、キキョウやワレモコウなどの草原性植物がみられましたが、近年の産業構造等の変化から、放置された林が増加しています。

②九十九里の湿地と砂浜

太平洋に面した九十九里平野は、幅7～11km、長さ南北60kmに及び日本有数の海岸平野で、この平野には池や湿地が多く、一部は水田として利用されてきました。



九十九里浜

資料：千葉県生物多様性ハンドブック

■九十九里平野の池や湿地の生態系

九十九里平野の池や湿地は、栄養分の少ないやせた土地であったため、かつては「成東・東金食虫植物群落」にみられるモウセンゴケやミミカキグサ等、貧栄養地に特有な食虫植物をはじめ、背丈の低い湿地植物の宝庫でした。しかし、排水路の整備や宅地開発の進展により池や湿地は急激に減少し、現在では湿地植物は姿を消しています。

■九十九里の砂浜の生態系

九十九里の砂浜は、アカウミガメが毎年産卵にくる場所の北限として知られています。砂浜ではミユビシギなどシギ・チドリ類が餌を探し、沖ではイワシ類やアジが回遊し、時にスナメリの群れもみられます。

近年では、護岸による砂の供給の減少や、砂浜への車両の乗り入れなどにより、生物生息環境がおびやかされています。

また、アカウミガメの産卵が目撃されることもまれになってきており、ハマヒルガオの植生も減少しています。



アカウミガメ

資料：千葉県生物多様性ハンドブック



海岸の侵食

資料：建設課

(3) 貴重な自然

① 県立自然公園

本市においては、砂浜と防風林による雄大な景観が展開し、海浜植物やコアジサシの営巣、アカウミガメの産卵地等の自然が残る太平洋沿岸部が県立九十九里自然公園に指定され、車両の乗り入れ規制等により、自然環境の保全が図られています。

近年の状況として、浸食によりここ 30 年ほどで数十メートルも海岸線が後退し、その影響によって市内 4ヶ所の海水浴場が、現在では 1ヶ所となってしまいました。ヘッドランド等の整備が進められ、それまでの急激な減少は抑えられていますが、十分な回復には至っていません。

② 郷土環境保全地域

本市においては、郷土環境保全地域として、「飯高檀林の森郷土環境保全地域」及び「妙福寺・飯高神社の森郷土環境保全地域」が指定され、工作物の新・改・増築、宅地造成、木竹の伐採等に際して届出を義務づけ、環境の保全を図っています。

■ 郷土環境保全地域の概要

地域名	面積 (ha)	指定年月日
飯高檀林の森郷土環境保全地域	6.77	昭和 59 年 5 月 11 日
妙福寺・飯高神社の森郷土環境保全地域	3.32	昭和 60 年 5 月 24 日

資料：千葉県ホームページ

③ 特定植物群落

本市においては、平成 9 年度、10 年度に実施された第 5 回調査において、九十九里浜に所在する砂丘植生 3 件が特定植物群落に選定されています。しかし、以降の調査は行なわれておらず、現状での面積は不明ですが、侵食等による特定植物群落の消失が危惧されています。

■ 特定植物群落の概要

件名	集約群落名	選定基準	相関区分	立地区分	面積 (ha)
九十九里浜北部の砂丘群落	砂丘植生	特殊立地	海浜植生	砂浜、礫浜	10
八日市場のハマハナヤスリ群落	砂丘植生	希な群落	海浜植生	砂浜、礫浜	1
九十九里浜の中央北部の砂浜群落	砂浜植生	特殊立地	海浜植生	砂浜、礫浜	75

資料：生物多様性センターホームページ

④巨樹・巨木

平成 12 年に環境庁が行った「巨樹・巨木フォローアップ」調査において、旧八日市場市では 211 本の巨木（地上 1.3メートル以上の高さで幹周りが3メートル以上の樹木）が確認されています。巨樹・巨木の数は、当時、全国7位にランクされ、市町村合併が進んだ現在の順位は不明ですが、全国有数の巨樹・巨木の残る市となっています。

本市の巨樹・巨木は、そのほとんどが寺社や民家などに存在し、市内の広範囲にみられます。

■ 市内の代表的な巨木（上位 10 位）

順位	幹周り（m）	樹種	所在	目印
1	10.0	スダジイ	安久山	平山宅裏庭
2	7.7	スギ	松山	松山神社
3	7.5	スダジイ	安久山	MKハイツ裏
4	7.0	スダジイ	飯高	飯高寺
5	6.8	スギ	生尾	老尾神社
6	6.5	スダジイ	八日市場口	愛宕神社
7	6.2	タブノキ	小高	石井宅南
8	6.2	スギ	入山崎	妙見社
9	5.6	スギ	飯高	飯高寺
10	5.5	スダジイ	安久山	日枝神社の森

資料：匝瑳市ホームページ

●市民ワークショップから見た匝瑳市の環境（「自然環境」編）

【減少している生き物】

- ・昔は身近に見られた生き物が少なくなってきた。
- ・ホタル、トンボ（オニヤンマ、ギンヤンマ）、ドジョウ、ウナギ、カワセミ、シラサギ（コロニー）、オミナエシ（野生のもの）、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ヒキガエル、タナゴ、エビ、シジミ
- ・アカウミガメの保全（情報が少ない）

【増えている生き物】

- ・カラス、ムクドリ、ジャンボタニシ、ハクビシン（市内全域）

【生き物の減少の原因】

- ・農薬散布、三面張りの水路、休耕田の増加
- ・水路や河川は生き物が棲めない水質となっている。

【みどり、植物】

- ・緑豊かな土地だと感じる。
- ・緑の量は変わっていないが質は変わっている。
- ・スギ、ヒノキが多い。
- ・広（黄）葉樹が少ない。

【里山としての環境】

- ・山と水田の境がなくなった。
- ・里山の手入れをしなくなった。
- ・昔は湧水が見られ、飲むこともできた。

【生き物の情報を知る手段】

- ・昆虫類、植物のデータが少ない。

4. 快適環境

(1) 公園・緑地

①公園

本市では、市民の憩いの場として親しまれている「天神山公園」をはじめとする都市公園が12箇所整備されているほか、都市公園以外の公園として「野菜ふれあい公園」が整備されています。

このほか、児童遊園12箇所が整備されており、子ども達に身近な遊び場を提供しています。

代表的な都市公園である「天神山公園」は、市街地に隣接する丘陵地に、地形や自然環境を活かした市民の憩いの場として整備され、市民の各層の利用を考慮した多様なオープンスペースを散策路等で結び、また、桜の植栽や四季の草花等が随所に配されています。

■ 匝瑳市の主な公園

■ 都市公園

区分	名称	所在地	設置年月日	面積(m ²)
地区公園	天神山公園	八日市場イ2291	H15.4.1	63,553
近隣公園	みどり平東公園	みどり平13-2	S57.11.9	10,791
	山桑公園	山桑125	S59.3.30	32,931
街区公園	若潮公園	若潮町2-1	S51.4.1	2,592
	天神山下公園	八日市場イ2330	S55.2.1	1,476
	椿海公園	椿969-1	S56.6.26	2,825
	みどり平西公園	みどり平1-2	S57.11.9	1,411
	みどり平中公園	みどり平9-2	S57.11.9	400
	平和東公園	平木1487-1	H1.4.1	6,375
	小舟内公園	蕪里139-27	H2.8.1	130
	鈴歌公園	飯倉台37-1	H6.4.1	7,563
平台公園	飯倉台17	H8.3.31	3,247	

■ 都市公園以外の公園

名称	所在地	整備年度	面積(m ²)
野菜ふれあい公園	今泉363	H17	52,648

資料：統計そうさ（平成20年版）

②緑地

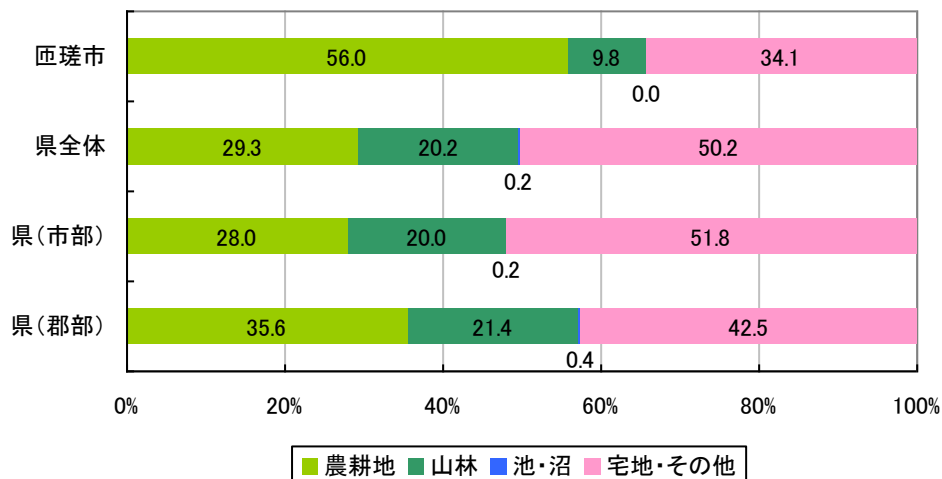
本市の緑地は、市北部の台地斜面を中心にスギ・ヒノキ植林やマツ植林等の樹林地が数多くみられ、特に「飯高檀林の森郷土環境保全地域」と「妙福寺・飯高神社の森郷土環境保全地域」周辺には、良好な樹林地が形成されています。

このほか巨樹・巨木も多く残る社寺林や屋敷林、さらに低地には田、畑、植木栽培の苗圃等が多く、みどり豊かな環境を形成しています。

地目別土地利用面積から、本市の緑地の構成比をみると、農耕地・山林合わせて65.8%となっています。県と比較すると、特に農耕地の比率が高く、山林を合わせた構成比においても、郡部の平均値を上回り、みどり豊かな土地利用構成となっています。

農地は、純然たる緑地とはいえませんが、景観や生態系等の面で環境への寄与も大きく、本市の特色ある環境資源として樹林地とともに保全していく必要があります。

■ 地目別土地利用における緑地の構成比（平成 20 年）



※農耕地：田、畑、牧場の合算値

資料：千葉県統計年鑑（平成 20 年版）

(2) 景観

①景観類型

千葉県では、美しく魅力ある景観を形成していくため「千葉県良好な景観の形成に関する基本方針」を策定しています。基本方針では、県土を「江戸川地域」「利根川水郷地域」「東京湾千葉地域」「房総台地地域」「九十九里海浜地域」「房総森林地域」「南房総海岸地域」の7地域に区分し、地域の特性を踏まえた地域区分毎の景観形成の方向性を整理しています。

本市においては、北部の北総台地が「房総台地地域」に、南部の平野部が「九十九里海浜地域」に区分されており、以下の景観特性があります。

■ 地域区分に基づく匝瑳市周辺の景観の特徴

房総台地 地域	地形分類や流域界		・ 関東ローム層に形成された、中央に大きく広がる平坦な房総台地からなる。
	景観特性	自然系	【農村山林系】 ・ 台地と低地の境界部には斜面林が帯状に残り、この地域の特徴的な景観を形成している。 ・ 印旛沼や河川周辺に広がる水田、台地部に広がる落花生畑や人参畑など、広大な田園景観を形成している。 ・ 広大な水田や畑などの田園景観と相まって、農村集落を形成している。
九十九里 海浜地域	地形分類や流域界		・ 県内で最も大きな広がりを持つ九十九里低地からなる。
	景観特性	自然系	【水辺系】 ・ 九十九里浜や保安林により形成される海岸景観は、この地域の特徴となっている。 ・ 栗山川などの中小河川では、周辺の水田とともに潤いある水辺景観を形成している。 ・ 九十九里浜ではハマヒルガオの群生がみられる。 【農山漁村系】 ・ 台地縁辺部にはサンプスギなどの斜面緑地が広がっている。 ・ 旭市、匝瑳市、東庄町にまたがる「干潟八万石」など、広大な田園景観を形成している。 ・ 田園の中に屋敷林に囲まれた集落景観を形成している。
		歴史系	・ 旧家の垣根には、飯岡石を積み上げた石垣がみられる。 ・ 台地縁辺部などには、歴史的に重要な史跡などの景観資源が多く存在している。
		市街地系	・ 古くからある商店街など、地域に根ざした景観が見られる。 ・ マキの生垣が、良好な生活景観を創出している。 ・ 国道126号などの幹線道路には、商業系施設の立地が進み、地域の景観に大きな変化を及ぼしている。

資料：千葉県良好な景観の形成に関する基本方針

②景観資源

本市の主な景観資源としては、「千葉県良好な景観の形成に関する基本方針」において抽出されている「九十九里浜」、「妙福寺と飯高神社の森」、「飯高檀林跡と森」、「日本ハリストス正教会と聖画」、「八重垣神社の駒まね祭り」があります。

「飯高檀林跡」は、県民投票をもとに千葉県教育委員会が選定した「ちば遺産 100選」にも選定されており、本市を代表する景観資源といえます。

また、市に隣接する「旭市椿海と干潟八万石の水田と農村景観」、「多古町栗山川流域の谷津田景観」は、「ちば文化的景観」として選定されており、これらエリアと一帯となった市の田園、谷津田等も貴重な景観資源といえます。

■ 「千葉県良好な景観の形成に関する基本方針」で抽出された景観資源

系統	区分	名称
自然系	海岸・岬・干潟・島	九十九里浜
	森・林	妙福寺と飯高神社の森
歴史系	神社仏閣・歴史的建造物	飯高檀林跡と森
		日本ハリストス正教会と聖画
	伝統的な祭り・行事	八重垣神社の駒まね祭り

資料：千葉県良好な景観の形成に関する基本方針

■ 「ちば遺産 100選」、「ちば文化的景観」に選定された景観資源

区分	景観資源名	景観資源の概要
ちば遺産 100選	飯高檀林跡 <飯高寺>	日蓮が生まれた房総には、江戸時代に日蓮宗の大学（檀林）が数カ所あった。その一つの飯高寺は飯高檀林と称され、全国から学僧が集う学校だったのである。境内全体が史跡として保存され、巨大な講堂、鼓楼（ころう）、鐘楼、一切経蔵（いっさいきょうぞう）などの建物があり、修学に励む学僧の息吹を今日に伝えている。
ちば文化的 景観	旭市椿海と干潟 八万石の水田と 農村景観	現在の旭市内には、江戸時代初期の17世紀までは太田の湖水・椿海と呼ばれた湖が存在していた。これは、九十九里浜北部に出来た入り江が淡水湖となったもので、その規模は東西12km、南北6km、全体の面積が51平方キロメートルに及ぶ巨大な湖であった。寛文8年（1668）、幕府の許可を得て、椿海の排水工事を実施、干拓を行い成立したのが干潟八万石と呼ばれる新田で、萬力（まんりき）、鎌数（かまかず）、入野（いりの）村などの新田村（しんでんそん）18ヶ村が成立している。この干潟八万石は、その後の灌漑用水の整備により、現在も九十九里平野の重要な穀倉地帯としての役割を担っており、秋には見渡す限りの黄金の稲穂が稔る広い水田の中に島のような集落が点在する風景を見ることができる。
	多古町栗山川流 域の谷津田景観	鮭がさかのぼる川としても有名な栗山川は、縄文時代（5000年前頃）の大きな入り江の跡で、その後、九十九里浜平野の堆積が進む中、栗山川流域には広大な平野が作られた。現在は、「多古米（たこまい）」を生産する穀倉地帯となっている。また、栗山川流域の低地からは、縄文時代の丸木舟が多数発見されているとともに、弥生時代以降、多くの遺跡が残されている。

資料：千葉県ホームページ

(3) 文化財

本市には、数多く指定文化財が所在し、その内訳は国指定が4件、県指定が15件、市指定が56件となっています。その多くは寺社が所有する絵画、工芸、彫刻、建築物等であり、主に北部丘陵部に分布しています。

また、国の登録有形文化財として、八日市場の4棟の建築物が登録されています。

●市民ワークショップから見た匝瑳市の環境（「快適環境」編）

【みどりの質、変化】

- ・同じ緑に見えるけど中身は変わった。手入れができていない。
- ・竹の手入れが出来ていない。→竹林が増えた。

【田畑の景観】

- ・休耕田が点在しており、景観上よくない。

【失われる海岸】

- ・砂浜が後退している。
- ・海岸は車両の乗り入れが禁止されているがPRが少ないのではないか。
- ・九十九里の雰囲気は昔とは変わってしまった。

【歴史を感じる環境】

- ・飯高檀林・神社→古くて良い歴史を持っている。彫り物が立派だが朽ちていくのが残念。
- ・巨樹・巨木めぐりに参加している。歴史のある緑を残していきたい。

【環境美化】

- ・川、野山、遊休地、水路にごみが多い。
- ・ごみが捨てられている場所をどうにかする。
- ・ポイ捨てが多い。
- ・野焼きの問題

5. 地球環境

(1) 資源循環

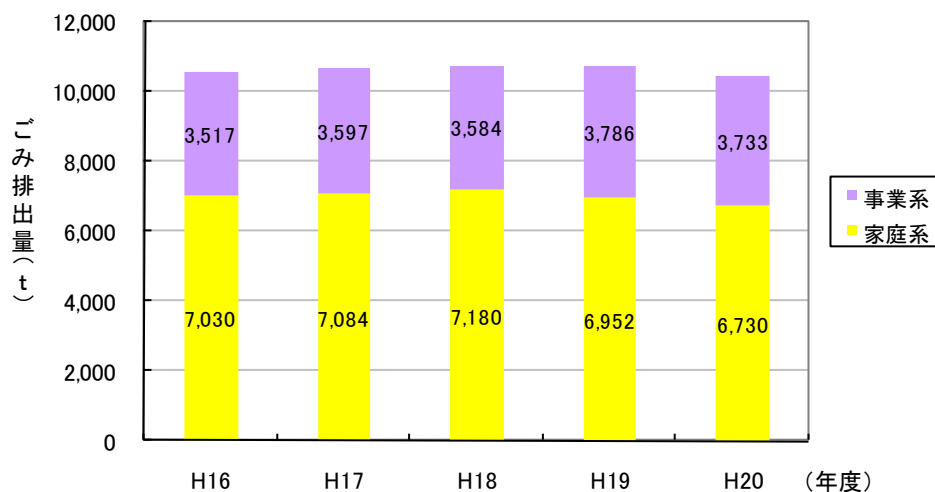
①ごみ排出状況

本市のごみ排出状況をみると、総排出量は、平成 18 年度まで増加傾向にありましたが、以降、徐々に減少傾向となっています。

排出者の区分では、家庭系が多く、事業系の約 2 倍の量となっています。

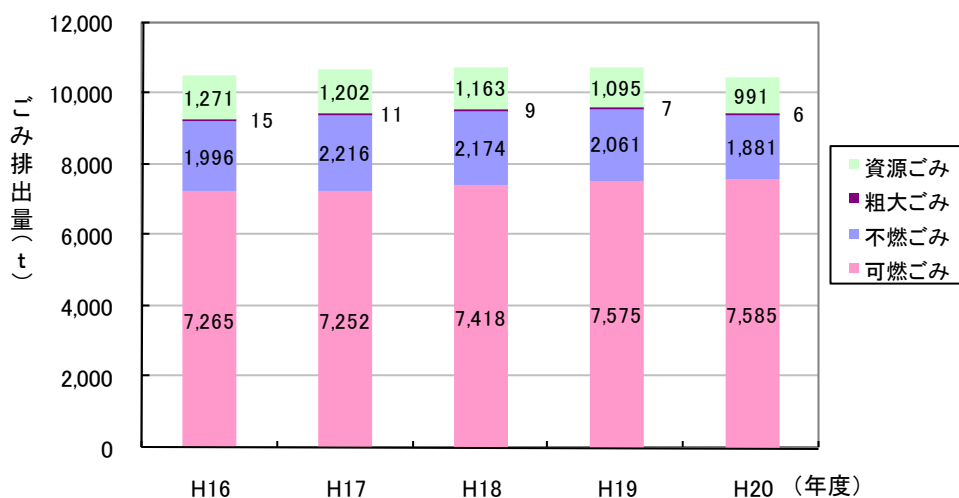
ごみ区分でみると、可燃ごみが全体の約 70%、不燃ごみが約 20%と大部分を占めています。可燃ごみにおいては、その他の区分が全て減少している中で増加の傾向にあることから、発生抑制・減量化が今後の課題といえます。

■ 排出者別のごみ排出量の推移



資料：匝瑳市ほか二町環境衛生組合

■ ごみ区分別のごみ排出量の推移



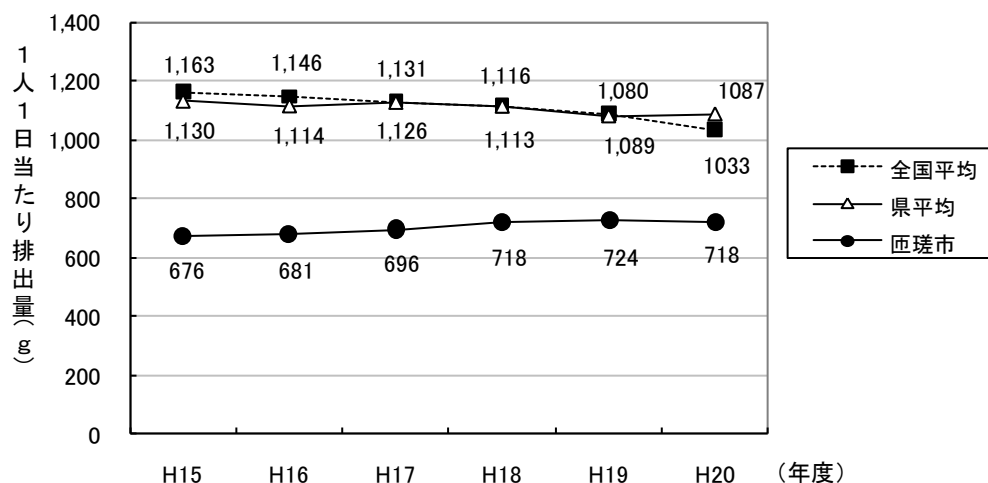
資料：匝瑳市ほか二町環境衛生組合

②ごみ排出量原単位

ごみ排出量原単位（1人1日当たりの排出量）をみると、匝瑳市は、全国平均、県平均を下回っています。

ただし、全国平均、県平均が横ばいから低下傾向にある中、匝瑳市では増加傾向にあることから、ごみ減量への意識高揚等に取り組んでいく必要があります。

■ ごみ排出量原単位の推移



注) ごみ排出量原単位：(家庭系ごみ+事業系ごみ+集団回収) ÷ 365日 ÷ 計画収集人口

資料：匝瑳市ほか二町環境衛生組合、清掃事業の現状と実績（千葉県）

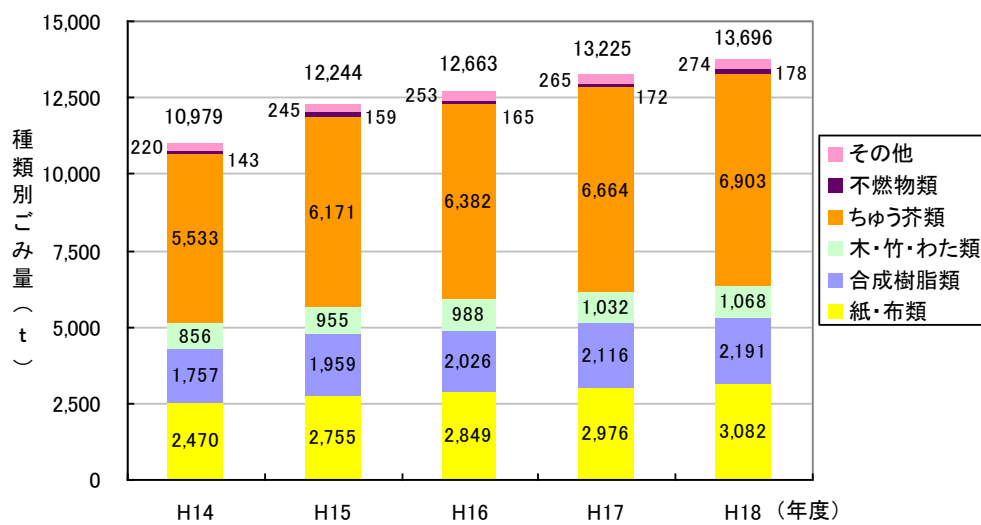
③可燃ごみ質

松山清掃工場のごみ質調査結果（概算値）をみると、可燃ごみの内訳（匝瑳市ほか二町環境衛生組合全体の値）としては、ちゅう芥類が約 51%を占め、次いで紙・布類、合成樹脂類となっており、いずれも増加傾向にあります。

ちゅう芥類は、住民の努力により資源化することが可能であり、また、紙・布類や合成樹脂類にも、資源物が含まれていると考えられます。

注) ちゅう芥類：家庭の台所や飲食店などの事業所から出てくる野菜くずや食べ物の残りなどのごみを指す。

■ 松山清掃工場の可燃ごみ質（概算値）



資料：一般廃棄物処理基本計画（匝瑳市ほか二町環境衛生組合、平成 20 年）

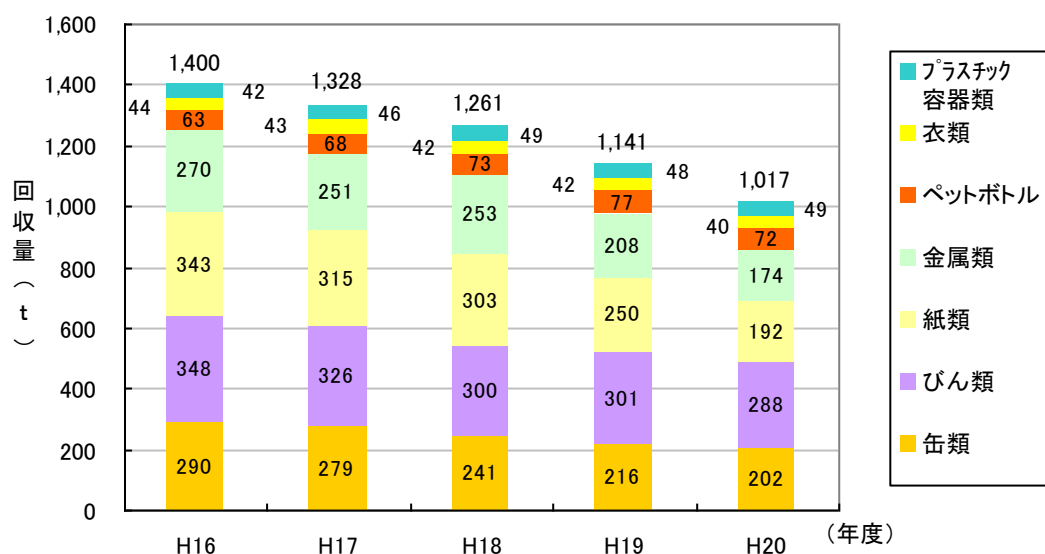
④リサイクルの状況

本市では、資源ごみを 13 種類に分別し、ごみステーションでの回収を行っています。資源ごみ回収量の推移をみると、平成 16 年度以降は、年々、減少傾向となっています。

資源ごみの区分では、缶類、びん類、紙類、金属類の割合が多くなっていますが、いずれも回収量は減少しています。

回収量減少の一因としては、重量の重い紙類、金属類、ガラス類が減少し、重量の軽いペットボトル、プラスチック容器類が増加していることが影響しています。

■ 資源ごみ回収量の推移



注) 環境衛生組合での処理総量を構成市町で按分して算出したため、前掲の「ごみ区分別のごみ排出量の推移」の数値と一致しない。

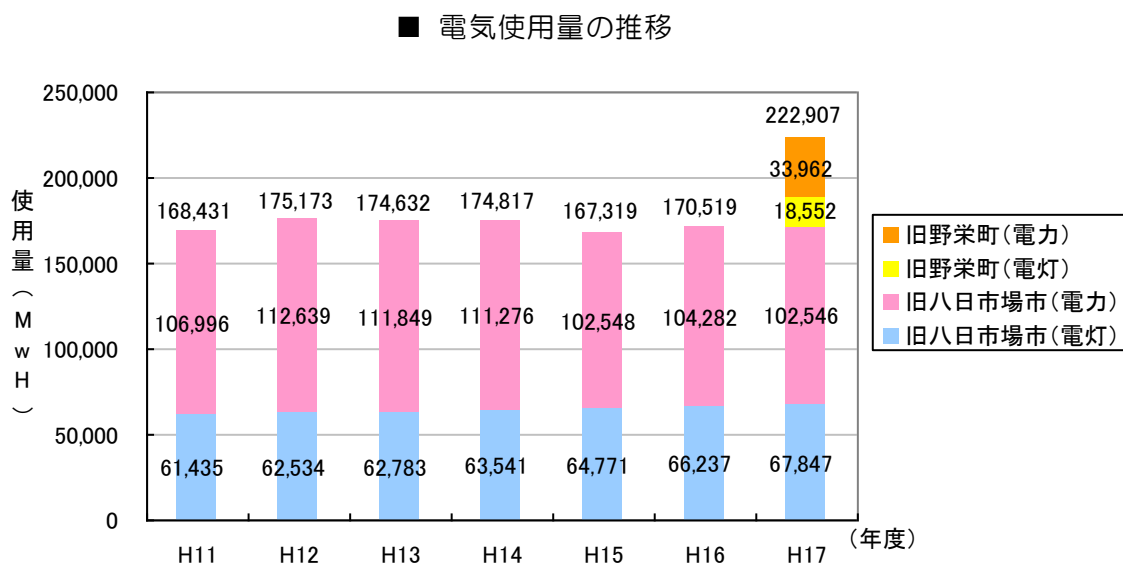
資料：匝瑳市ほか二町環境衛生組合

(2) エネルギー・資源の利用

①電気

旧八日市場市の電気使用量の推移をみると、僅かながら減少の傾向となっています。

契約区分でみると、ビルや工場等を対象とする電力が減少しているのに対し、一般家庭等を対象とする電灯は増加傾向となっています。

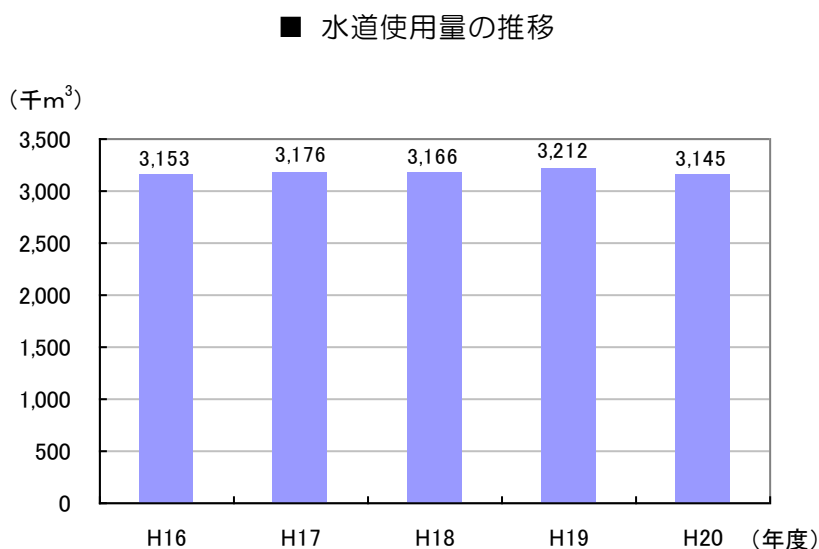


注) 平成 16 年度以前の旧野栄町の電気使用量及び 17 年度以降の匝瑳市の電気使用量については不明であるが、省エネルギーを推進するうえで、電気使用量は重要な項目であり、参考として掲載した。

資料：統計そうさ

②水道

水道使用量の推移をみると、ほぼ横ばいの状況となっています。



資料：八咫水道企業団

●市民ワークショップから見た匝瑳市の環境（「地球環境」編）

【ごみ問題：循環型社会の構築】

- ・ごみの分別の方法が難しい。
- ・家のごみを見ると包装紙だらけに気づく。

【地産地消：エネルギーと健康】

- ・学校給食で、地産地消をすすめている。
- ・消費者が賢くなるべき。
- ・食生活が変わった。
- ・ファーストフードは高カロリーで腹もちがよく安い。ファーストフードがはやるのは経済状況が悪化しているのも原因。
- ・花粉症は、食生活の変化も影響しているのではないか。
- ・アトピー性皮膚炎が増えたのは食生活の欧米化が影響している。

第3章 匝瑳市における環境課題

1. 生活環境

本市では、二酸化窒素、浮遊粒子状物質等の大気については環境基準が達成されているものの、水質、騒音・振動については、一部、環境基準を満たしていない状況となっています。

一方、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭についての公害苦情が寄せられ、これらは、野焼きや近隣騒音、排水等の都市・生活型公害に関連するものと考えられます。

これらの都市・生活型公害の発生抑制に向けて、発生源に対する未然の防止対策を講じていくことが必要です。

■ワークショップによる匝瑳市における生活環境に関する課題

- ・水路にゴミが多く、水生生物も減少している。
- ・水質改善を図るべきであり、合併浄化槽の普及が望まれる。
- ・コンクリートによる護岸工事が河川の水質を悪化させている原因の一つである。
- ・騒音については、トラックの増加に伴う騒音、狩猟の猟銃の音等があげられる。
- ・悪臭については主に畜産が発生源となっており、臭いがきついと感じる地域がある。
- ・土壌については、土の力が弱くなり、食物が育ちにくくなっている。土壌のバランスが崩れている。

2. 自然環境

水田や畑、雑木林、社寺林等、市民の生活と密接に関係しながら形成されてきた里山の自然は、本市の環境を特徴づける重要な資源です。

また、九十九里の海岸も、本市にとって、重要な自然環境を形成する要素であり、植物や生き物にとっても重要な生息環境となっています。

これらの自然環境について意識を持ち、行政と市民が協力し、豊かな自然を保全していくことが必要です。

■ワークショップによる匝瑳市における自然環境に関する課題

- ・排水路の整備や宅地開発等により、沼や湿地が減少している。また、農薬散布や休耕田の増加、外来生物の増加等により動植物の生息域は減少している。
- ・農業については無農薬農業の推進が望まれる。
- ・水路や河川の水質改善については、合併処理浄化槽の設置、公共下水道の整備、無毒化技術等、水を蘇生するための技術や施設の設置が求められている。
- ・里山の手入れを行わなくなり、土地が荒れ、かつての良好な自然環境が失われてきている。また、手入れができない理由の一つには、私有地である山等の地権者がわからないため、手を加えられないという現状もある。地権者不明の土地については、市が山菜取りや間伐材を利用したワークショップ等の企画を提案し、地域住民と共に、楽しみながら保全できる場が欲しいとの要望がある。
- ・里山環境、自然環境保全のための人員が不足している。保全の担い手の確保も今後の課題である。
- ・植生については、スギやヒノキの植林が多くみられ、広葉樹が少ない。肥沃な土壌をつくるには、針葉樹だけではなく、多種多様な樹木を植えることが必要である。
- ・九十九里浜はアカウミガメの最北端の産卵地であるが、近年、産卵の目撃が少なくなっている。産卵後の自然孵化もできない状況である。護岸の砂の減少、砂浜への車両の乗り入れ等によりアカウミガメのみならず、チドリや海浜植物等の生息環境も悪化している。
- ・昆虫類や植物の種類が減少傾向にあるがデータが少なく、生育・環境状況が不明。中高生等がデータ収集している場面もみられるが、今後は共有できるデータベースの作成が必要である。

3. 快適環境

生活と歴史に密着したみどりの保全は、自然環境の保全としての観点はもちろん、市の良好な風景を構成する要素として、潤いのある快適環境の観点からも重要です。市の特徴的な風景を活用した地域性あふれる景観づくりを行っていくことが求められます。

また、環境美化の観点からごみのポイ捨てや不法投棄がないようマナー・モラルの向上を図り、清潔で美しいまちづくりを目指していくことが必要です。

■ワークショップによる匝瑳市における快適環境に関する課題

- ・ ゴミの不法投棄は増加している。市外からのポイ捨ても多く、海岸、河川、山や遊休地等でゴミは多数見られる。イベント等でゴミ拾いを行うなど、モラル向上につながる活動を行うと効果があるのではないか。
- ・ ポイ捨てや不法投棄には罰金の徴収や、市で警告する等強い姿勢で望む必要がある。
- ・ ゴミステーションでは、指定日以外でもゴミが捨てられている。ゴミ袋に氏名を書く、鍵をつける等工夫が必要。
- ・ 海岸では護岸工事、砂丘の後退が進み、昔の面影がなくなっている。反対に、陸地では休耕田や竹林等放置された箇所が増えており、景観が悪化している。
- ・ 飯高檀林や神社など歴史的建造物において、劣化・損傷が見受けられる。
- ・ 街路樹など沿道の樹木の管理が不十分。地元のボランティア等が必要である。
- ・ 八日市場駅前ロータリーが整備されたが、利用者の使い勝手が悪い。
- ・ 野焼きが多い。

4. 地球環境

今日の環境問題は、大量生産、大量消費、大量廃棄といった日常生活や事業活動に伴う環境への負荷の増大によるものが多く、私たち一人ひとりが原因者であると同時に被害者となっています。

物質的な豊かさの追求に重きをおく、これまでの生活様式から、持続的に発展することができる循環型社会を構築することが必要です。

■ワークショップによる匝瑳市における地球環境に関する課題

- ・ゴミの分別があいまいでわかりにくいため、分別の講習会を地区ごとに定期的に行ったり、ゴミ袋を改良する（絵や文字を入れる、色を変える等）必要がある。
- ・分別の徹底を行い、回収BOXやリサイクルBOXを設置し、リサイクル率を向上させる。
- ・養豚場への廃棄物の再利用等も考えられないか。
- ・他自治体の例では、ゴミ袋を年度当初に20袋無料配布を行い、ごみ減量化を図れた（不足時の際は30円／袋で購入できる）。エコ活動には動機付けと、経済的メリットを示す必要がある。
- ・石油依存の社会から低炭素社会を目指す。生活を見直し、使い捨てのものは買わない、不要なものは削る、公共機関を利用する等ライフサイクルの改善を進めることが必要である。
- ・子供の頃から長期的に環境教育を行い習慣化する等、環境に対する意識の土台を作ることも大切である。
- ・地元の食材を学校給食にも取り入れる等、地産池消のあり方を考え、推進する。流通の短縮も可能ではないか。
- ・近年、アトピーや花粉症などのアレルギーを発症する人は増加傾向にある。食生活の欧米化、野菜等のミネラル・栄養不足、添加物の摂取等による影響が考えられる。健康問題と環境問題は密接な関係にある。

第4章 匝瑳市の環境目標

1. 匝瑳市の目指すべき環境像

本市の環境の象徴でもある「海」と「里山」の恵まれた自然、さらには市街地を包み込む「田園風景」は、歴史と市民生活の共生によって育まれてきたものです。

また、近年の地球温暖化をはじめとする地球規模の環境課題の解決に向けた循環型社会の構築は、同時に、本市の海や里山等の自然を守ることにもつながります。

本市をとりまく環境の現状と課題を踏まえ、人の生活と歴史が育んだ里山や田園風景、九十九里海岸等の自然と共生し、循環型社会づくりを通して、快適な環境、豊かな生活を育むため、市民・事業者・市が連携し、以下の将来の匝瑳市の環境像の実現に向かって行動することとします。

■匝瑳市の望ましい環境像

『海・里山・田園と共生し豊かな生活をはぐくむまち 匝瑳市』

2. 基本目標

本市の目指すべき環境像を実現し、地域そして地球規模の豊かな環境づくりを進めるため、以下の基本目標を設定します。

1. 生活環境：心地よく、健康で安心して暮らせるまちを目指して

誰もが健康で安心して暮らせるまちを目指し、公害等の発生源に対する未然の汚染防止を図っていくことが必要です。

汚染物質の排出実態の把握や適切な情報提供・公開を行っていくとともに、法令等に基づく規制・基準の遵守について指導に努め、市民・事業者・市が協働して都市・生活型公害の対策を行っていきます。

2. 自然環境：自然と人との共生がはぐくんだ里山・海が

いつまでも保全されるまちを目指して

里山や海等から形成される本市の自然は、比較的豊かであるといえます。

しかしながら、多様な動植物の生育・生息場所ともなっているこれらの自然空間は、都市化に伴い少しずつ失われつつあります。このことから、本市の恵まれた自然を次世代へと引き継いでいく必要があります。

国や県、市民団体と連携した里山や海等の保全策を進めることで、市全体としての自然環境の保全を図っていきます。

3. 快適環境：まちの生活と歴史ある風景が感じられるまちを目指して

本市の良好な風景を構成する潤いのある快適な環境をつくるため、生活と歴史に密着したみどりを活かした景観づくりを行っていくことが必要です。

市の特徴的な風景を活用した地域性あふれる景観づくりを行っていくとともに、ごみのポイ捨てや不法投棄のない美しく清潔なまちづくりを行っていきます。

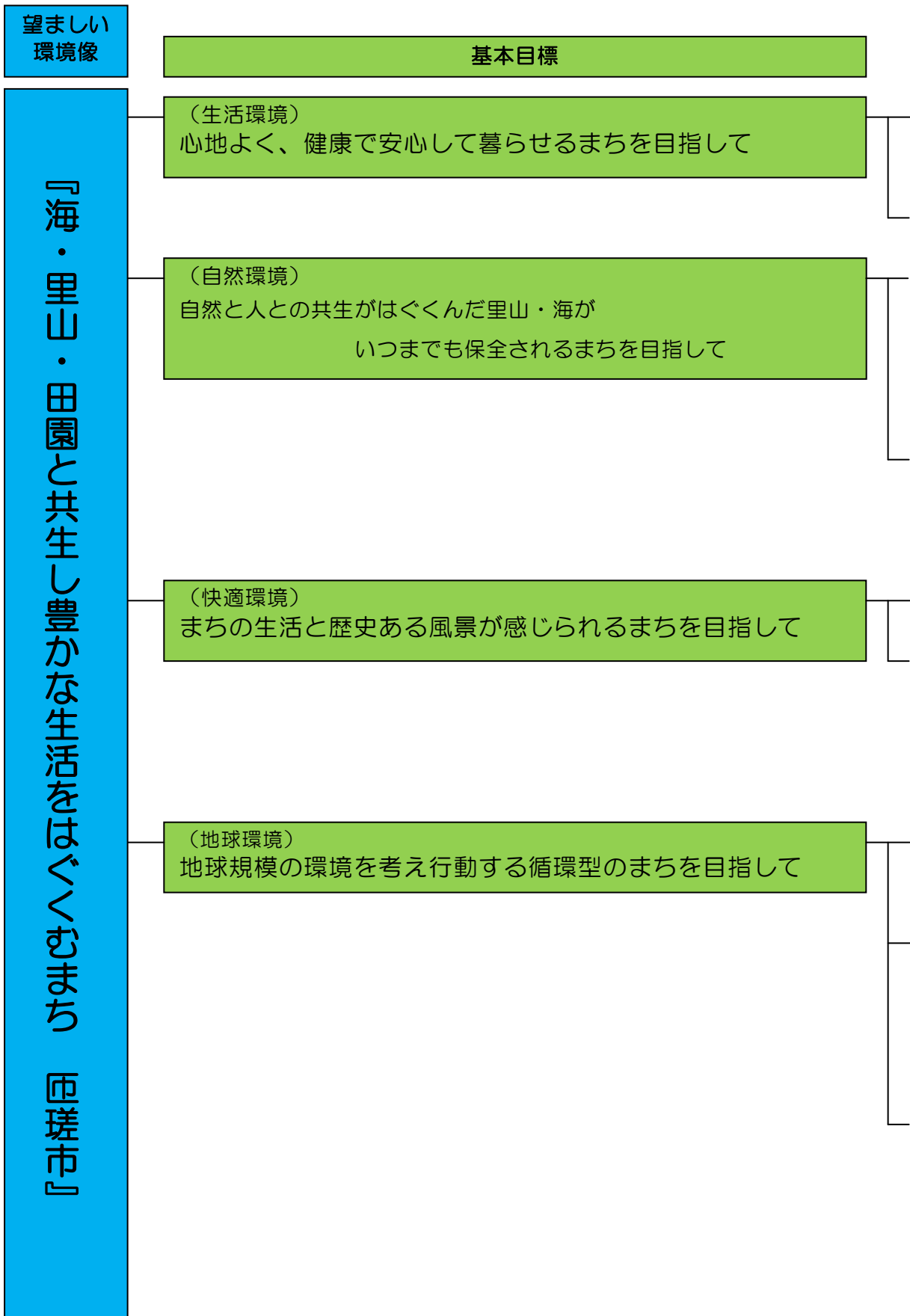
4. 地球環境：地球規模の環境を考え行動する循環型のまちを目指して

次世代へ歴史ある環境資源を残していくために、私たちは持続的な発展が可能な社会を築いていくことが必要です。

ごみの発生抑制やリサイクルの推進による省資源、省エネルギーを進め、資源の新たな消費を抑制し、質の高い循環型社会を構築していきます。

また、地球温暖化等の地球規模の環境問題は、私たちの身近な日常生活が要因となっていることを認識し、市民一人ひとりが考え行動していくものとします。

3. 施策の体系



第5章 基本施策

第6章 市民・事業者の環境配慮指針

第7章 計画の推進